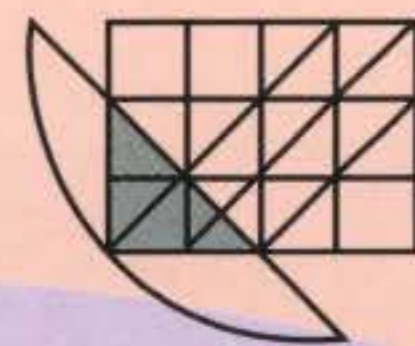


博物館だより



和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.3

1998.6.1



徳川家康画像



南蛮胴具足



徳川頼宣画像



禪糸威胴丸具足

特別展

東照宮の文化財Ⅰ「家康と頼宣」

■会期 平成一〇年四月二十五日(土)～六月二十八日(日)

紀州東照宮に伝来する数多くの優れた文化財の中から、徳川家康とその子頼宣ゆかりのもの、および日光東照宮・久能山東照宮・名古屋東照宮の文化財のうちで、代表的かつ紀州と関連性の強いものを中心に展示し、江戸初期の文化の一端を紹介します。



重文 藍地花菱唐草文散紋小袖 (家康所用)
紀州東照宮蔵



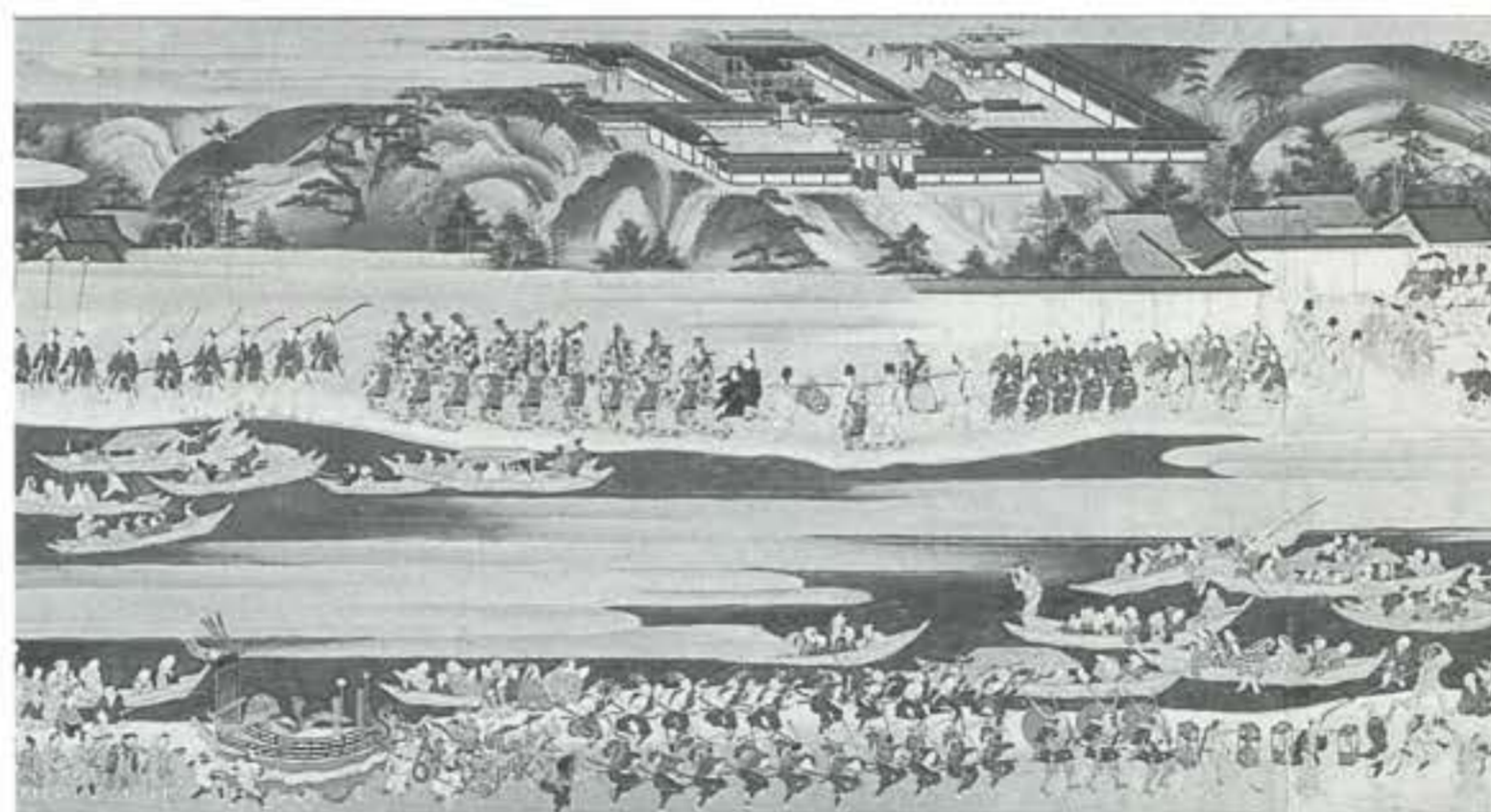
県指 紅地桃果文繻珍陣羽織 (頼宣所用)
紀州東照宮蔵



重文 太刀 銘 安綱 糸巻太刀拵 (家康所用) 紀州東照宮蔵



県指 芦雁蒔絵冠箱 (家康所用)
紀州東照宮蔵



県指 東照宮縁起絵巻 第五巻 紀州東照宮蔵



県指 茶壺 銘 楊柳 (家康所用)
紀州東照宮蔵

【主な出陳品】

- | | | |
|----|--------------------------|--------|
| 県指 | 東照宮縁起絵巻 | 紀州東照宮蔵 |
| | 短冊 (家康筆) | 紀州東照宮蔵 |
| 重文 | 南蛮胴具足 [附、葵紋蒔絵具足櫃] (家康所用) | 紀州東照宮蔵 |
| 県指 | 金唐革南蛮仕立陣羽織 (家康所用) | 紀州東照宮蔵 |
| 県指 | 色々威二枚胴具足 (家康所用) | 紀州東照宮蔵 |
| 重文 | 太刀 銘 安綱 (家康所用) | 紀州東照宮蔵 |
| 重文 | 紺地宝尽小紋小袖 (家康所用) | 紀州東照宮蔵 |
| 県指 | 縹糸威胴丸具足 (頼宣所用) | 紀州東照宮蔵 |
| 県指 | 紅地桃果文繻珍陣羽織 (頼宣所用) | 紀州東照宮蔵 |
| 県指 | 襷襟 (頼宣所用) | 紀州東照宮蔵 |
| 県指 | 金銀摺箔匂袋 (頼宣所用) | 紀州東照宮蔵 |
| 県指 | 葵文散小紋麻単鎧下着 (頼宣所用) | 紀州東照宮蔵 |

開館時間=午前9時30分～午後5時
(入館は4時30分まで)

休館日=月曜日(但し、5月4日Ⓢは開館、
5月6日Ⓢは休館)

入館料=一般610円(490円)

高校生・大学生400円(330円)

小学生・中学生210円(160円)

* ()は団体20人以上

紙本着色 徳川齊順御帰国御行列之図 一巻

縦二四・七cm 横二六九九・九cm
天保十五年（一八四四）

この行列図は、紀州藩十一代藩主徳川齊順が天保十五年に参勤交代で江戸から帰国した際、和歌山城下（京橋から本町御門）を行列する様子を描いたものです。作者は城下駿河町に住む糸源という人物で、プロの絵師ではなかったようですが、かなり絵心があったらしく、他にもいくつかの作品を残しています。当時八五才であった作者は、製作の目的について行列をみる事ができなかった国中の老若男女に「御目出度」行列の様子を知らせるために描いたと記しています。

参勤交代とは、江戸幕府が諸大名や旗本に対して、一定の時期を限って江戸と国許を行き来させたもので、寛永十二年（一六三五）の武家諸法度で制度化されました。將軍から領地を認めてもらう（御恩）かわりに、江戸に伺候する（奉公）、という主従関係を意味するものでもありました。

紀州藩の参勤交代のルートは時期によって異なっていますが、近世中期以降になると江戸から東海道を大坂まで行い、大坂から上方街道を南下して和歌山に向かうルートが一般的でした。天保十五年のときは、三月十八日に江戸を出発して、途中の宿場で休憩や宿泊をとりながら、和歌山城に入ったのが四月十日ですから、全行程二日間の旅でした。二川宿（豊橋市）の本陣であった馬場家には、このときは安部川や大井川（静岡県）が増水し、予定よりも到着が四日遅れたことや二川宿での接待の様子を記した宿帳が残っています。

この行列図に描かれた家臣や人足を数えてみると、千人足らずですが、枚方宿の史料では同じころに家臣や人足合わせて三千人いたことが記されています。紀州徳川家は將軍家と姻戚関係を結んでいたこともあって、紀州藩の行列は將軍の行列と区別がつかないくらい大規模なものであったようです。紀州藩の参勤交代のルート沿いには、「紀州様」という言葉も残っています。どういふ意味か、時間があれば調べてみて下さい。

御駕籠（徳川齊順）



瓢箪形諸士

御駕籠脇諸士

御駕籠之者

諸士

御同朋

(本町御門)



スポットライト・博物館

No.3

学習室

エントランスホールから階段・エレベーターで2階にあがり、屋外展示室を越えた奥には、学習室があります。

ここには椅子や机が備えてあり、壁側の本棚には歴史や文化財に関する書籍が並べられています。子供向けの歴史漫画等も用意しています。どうぞ自由にご覧ください。

将来は、普段展示できない館蔵品や主な県内文化財を検索し、映像等で閲覧できる文化財情報コーナーとして整備していく予定です





博物館の催しもの

◎親と子の歴史教室④ 「熊野古道 糸我峠を往く」を終えて

さる五月九日（土）、親と子の歴史教室④「熊野古道 糸我峠を往く」を開催しました。糸我峠は古道の雰囲気をよく残す峠道で、周囲には「熊野詣で」の往時を偲ばせる史跡や寺社がたくさんあります。

当日は晴天にも恵まれ、約五〇名の参加者は、小賀直樹先生・垣内貞先生の先導により、午前一〇時にJR紀伊宮原駅を出発しました。まず宮原の渡し場の跡から中将姫ゆかりの得生寺に向かい、開山堂で姫の木像を拝観しました。糸我稲荷神社・糸我王子跡から山道に入り、糸我峠で昼食をとった後、湯浅の町へと入りました。湯浅では、和歌山を代表する伝統産業の一つである醤油醸造の様子を「角長」で見学し、麴室「内伝」では甘酒の振る舞いを受けました。そこから道町の古い町並みを通って、古刹深専寺で本堂や境内のホルトノ木等を見学し、最終目的地の勝楽寺では八林の重文の仏像と対面し、一日の行程を締め括りました。

特別展「中国・山東省の至宝」

【内容】

和歌山県と友好提携関係にある中国・山東省より、優れた文物を県として初めて借用・展示し、県民に山東省の歴史を紹介するとともに、両省県間の友好をさらに深めることを目的とします。

展示する文物は、約三万年前の旧石器時代から清朝までにわたり、山東省に一拠点のあった黄河文明の推移をたどることができまます。また、中国王朝の都城に近い地域であったために、多くのレベルの高い資料があります。主に、省都・済南にある山東省博物館の名品と特定の代表的遺跡から出土した資料を中心に展示します。

【展示期間】

平成一〇年九月二三日（水）～一二月八日（日）

【展示作品数】

約一〇〇件

（展示場所：常設展示室の一部・企画展示室）

【主な展示資料】

- ①白陶鬲（大汶口／泰安大汶口遺跡・山東省博物館蔵）
- ②蛋壳黑陶杯（龍山／濰坊姚官庄・山東省博物館蔵）
- ③銅鉞（殷／清州蘇埠屯商墓・山東省博物館蔵）
- ④齊刀幣・刀幣範（戦国／臨淄齊国故城・山東省博物館蔵）
- ⑤孫子兵法竹簡（漢／臨淄銀雀山・山東省博物館蔵）
- ⑥小銀塔（宋／山東省博物館蔵）
- ⑦宋慶盃甲（清／山東省博物館蔵）

【主催】

和歌山県立博物館・山東省文物事業管理局

【入場料】

一般	高校・大学生	小・中学生
個人 一八一〇円	五一〇円	二六〇円
団体 二六六〇円	四〇〇円	二二〇円

博物館の利用案内

開館時間 午前九時三〇分～午後五時

（入館は午後四時三〇分まで）

休館日 ・月曜日

（月曜日が祝日の場合はその翌日）

・一二月二八日～一月四日

・九月一七日～二二日

・一月一〇日～一三日

・臨時休館日

駐車場 九〇台収容

有料（二時間以内三〇〇円、以後三〇分ごとに一〇〇円追加）

（バスを駐車するスペースもあります）

・学校行事（遠足など）・授業でのご利用も可能です。常設展については、ティーチャーズガイドと生徒用ワークシートを用意しておりますので、ご来館の前にあらかじめご連絡・ご相談ください。

・特別展開催のため、常設展は九月二三日～一月八日の期間、閉鎖します。

和歌山県立博物館友の会

◆◆◆会員募集のお知らせ◆◆◆

県立博物館では、友の会会員を募集しています。常設展・特別展を無料で観賞できるほか、色々な特典があります。年会費は、一般会員が三、〇〇〇円、賛助会員が六、〇〇〇円です。

申込・問い合わせは、和歌山県立博物館友の会事務局まで。

和歌山県立博物館 博物館だより 第三号

発行日 平成一〇（一九九八）年六月一日

編集 和歌山県立博物館

〒六四〇一八一三七 和歌山市吹上二丁目四番一四号
TEL (〇七三四) 三六一八六七〇